一般財団法人京都ユースホステル協会

2023年度事業報告書

期間：２０２３年４月１日～２０２４年３月３１日

“**Say Hi to the world** ー旅の持つ力ー”

若者が世界（旅）の扉を開けて　学びや発見に出会うために

ユースホステルはいつも彼らを応援します

〒616-8191　京都市右京区太秦中山町 29　宇多野 YH 内

TEL: 075-462-2312　FAX: 075-462-2289

URL: http://www.yh-kyoto.or.jp　E-mail: kyh@yh-kyoto.or.jp

目 次

目　次 1

はじめに 2

数値目標達成状況 3

事業活動概況

I. ユースホステル活動 .... 4 ‐ 7

II. 宇多野ユースホステル（指定管理事業） .... 8 ‐ 11

III. ユースホステル関連活動 .... 12 ‐ 13

IV. 天橋立ユースホステル .... 14 ‐ 15

V. 組織運営 16

財務状況 .... 17 ‐ 18

（別添資料）　2023 年度事業別詳細資料

はじめに

2023 年度は、京都の観光においても宇多野ユースホステルの利用においても、コロナ禍からの力強い回復が見られました。

一方、こうした経済や京都観光の回復により、欠員人材の補充など人材確保が非常に難しい状況が続きました。

その為、休日出勤などの厳しい運営状況を強いられ、宿泊受入れを調整しないと運営を維持できない状況も生まれました。

そうした中で、従来の当協会の給与規定では求人への応募や人材確保が見込めないことから、3 月に契約職員の給与改定を行うなど人員の確保に取り組みました。

しかし、若い年代の職員確保の採用は厳しく、そのためには職員給与規定の改定などが不可欠となっております。

しかし、こうした給与等の処遇の改善には、その為の財源確保が欠かせません。

2008 年の宇多野ユースホステルの改築オープン以降、消費税のアップ以外の料金改定が行われず、こうした求人難だけでなく、電気・ガス等の光熱費や燃料、物品や物流費の上昇など運営経費の増大等への対応も求められておりますが、これらは現場の頑張りだけでは解決できない課題となっております。

また、1 月の能登半島地震から弱者に負担の少ない大規模等災害時の避難施設としての施設整備なども挙げられます。

京都市ともこうした課題の共通理解を深め、早急な課題解決が宇多野ユースホステルの社会的な使命や役割を果たしながら、財政負担の少ない施設運営のモデルを示す機会と捉え、料金改定を含めた提案を行っておりますが、今年度での実現には至りませんでした。

こうした課題の中で、日常の活動や観光等の回復、現場の運営での工夫や努力により、事業活動や宇多野ユースホステルでは目標を上回る実績を達成しました。（当期の宿泊実績：34,932 名）

一方、物価や人件費の増加ならびに個人旅行者等の食事摂取傾向の変化により、食堂等の物資頒布会計では、目標の収益に至りませんでした。（当期収支実績：18,826 円）

天橋立ユースホステルの運営については、年度当初は前運営委託者からの引継ぎや予約システムの回復など、予期していなかった運営移行の対応などで厳しい状況が続きましたが、8 月以降は大きく利用が回復し、下半期の実績は過去 10 年で最高となりました。（当期宿泊実績：2,475 名）

また、前運営委託者の未払金の立替回収については、裁判所の分割返済の決定が履行されず、強制執行を含む手続きを進めております。

今年度は必要であった 2 名の人員補充も 2024 年度に先送りとなりましたが、出来る限り早く人員補充等により運営体制を整え、事業計画目標を達成できるよう新しい人材の採用や育成、運営での効率化や省力化を進めるシステムの活用を進めてまいります。

引きつづき皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

専務理事　髙田光治

数値目標達成状況

（１）事業・取り組み

事業活動	年間目標設定項目	目標数	実績数	達成度
ＹＨ活動	イベント事業活動参加者数	35,240 名	45,451 名	128.9%
	青少年対象事業の参加者数	4,500 名	5,268 名	117.1%
宇多野ＹＨ	宿泊実績	30,500 名	34,932 名	114.5%
	学校団体利用実績	90 校	128 校	142.2%
	スポーツ団体利用実績	65 団体	66 団体	101.5%
ＹＨ関連活動	夕食提供数	17,000 食	15,645 食	92.0%
	朝食提供数	25,500 食	22,800 食	89.4%
天橋立ＹＨ	宿泊実績	—	2,475 名	—

（２）収支状況（経常増減額）

科　目	一般会計 建設基金	物頒会計	宇多野会計	天橋立会計	総　合
予　算	▲1,187,000 円	8,830,000 円	▲6,608,000 円	0 円	1,035,000 円
実　績	▲1,192,714 円	18,826 円	7,816,955 円	▲64,091 円	6,578,976 円
(対予算)	▲2,714 円	▲8,811,174 円	14,424,955 円	▲64,091 円	5,543,976 円
正味財産 期末残高	53,739,855 円	70,977,298 円	▲37,959,402	▲21,091,690	65,666,061 円

事業活動概況） Ⅰ．ユースホステル活動（青少年事業･旅行事業）

日常が戻り、対面的な交流や活動の機会が多い野外体験活動やユースホステルを利用した旅を通じて、仲間や人と共に過ごす時間がいかに大切であるかを改めて感じると共に、そうした意義を伝えることが出来る活動が回復してきました。

いま日本では、経済的な格差や貧困、恵まれない環境に育つ若者も増えています。そうした旅に出る機会に恵まれない青少年たちへ、京都ライオンズクラブの助成を受けて今年度もユースホステルの旅を贈る機会を提供することが出来ました。

引き続きユースホステルに関わる人たちと連携・協働しながら、積極的に取り組んでまいります。

（１）目標の達成状況

- 年間イベント・事業活動参加実績目標：延 35,240 名
  結果：延 45,451 名（目標達成率：129％）
- 年間青少年対象事業活動参加実績目標：延　4,500 名
  結果：延　5,268 名（目標達成率：117％）
- 新規・継続含め青少年支援につながる宿泊プログラムの実施：4 企画
  結果：2 企画実施（目標達成率：50％）

（２）トピックス

1. 青少年を主な対象としたユースホステルでの宿泊を伴う活動の強化

実施時期	4-6 月	7-9 月	10-12 月	1-3 月	合計
2023 年度目標	90 名	60 名	40 名	60 名	250 名
2023 年度結果	30 名	27 名	0 名	10 名	67 名

ア、屋外を活用した体験活動や交流会の継続実施

野外体験初心者の親子を対象としたプログラム「Step up Camp」、今年は敷地内に生えている竹を切り出し、自分たちで作った台で楽しむ「流しそうめん」体験を実施。子どもたちもナタなどの使い方を学び、たくましい様子が見られました。

日時：2023 年 8/19（土）～8/20（日）参加者：延 27 名

協力：株式会社 Ut-sun、（一財）ポジティブアースネイチャーズスクール

イ、Say HI for peace (Sleep for Peace)～ユースホステルから旅を贈ろう～

京都ライオンズクラブから助成金をいただき、社会的養護自立支援事業の一環として、養護施設出身者で社会的に孤立している若者などを対象に、ユースホステルの旅と焚火の宿泊野外体験を実施しました。参加者した若者たちは、出会った仲間と寝食など同じ時間を過ごす中で生まれる安心感や連帯感を味わうことができたようで、次回も機会があれば参加したいとの声が聞かれました。

日時：2024 年 3/1（金）～3/2（土）　参加者：10 名

協力：京都ライオンズクラブ、（公財）京都市ユースサービス協会

２．ユースホステルを利用した交流や体験活動の取り組み

ア、「京都でネパールを感じる 2 日間」と「うたのユース Open Day & 春のマルシェ」を同時開催

地元右京区地域の方々を中心に出店していただき、市民や地域の方々、旅行者が一緒に交流を楽しんでいただけるオーガニック系のマルシェを実施しました。

また今回は、登山家の竹内洋岳さんプロデュースによるネパールのイベントとして、「ネパールの山に暮らす人々の話」や「野生動物のリハビリ施設」など、トークイベントやワークショップ、音楽、ネパール料理などを同時開催し、盛り沢山のイベントとなりました。

日時：2023 年 5/13、5/14　参加者：約 550 名　　※マルシェは 2024 年 3/1 にも開催

イ、大学生インターンシップの受け入れ（国内・海外）

大学コンソーシアム京都より、大学生のインターン生１名を受入れました。宇多野ユースホステルでの様々な仕事の実習やイベントの実施などを通じて、宿泊業を目指す学生の実習体験と課題達成の場を提供しました。

また海外の大学とも連携し、台湾・南台科技大学より３名、アメリカ・ノーステキサス大学より１名の大学生インターンを受入れ、実習と国際交流の場を提供いたしました。

ウ、就労支援・社会体験の受け入れ

京都市立鳴滝総合支援学校職業学科生徒の実習受入れとして、個人の実習（6 名）や団体実習（9 回 60 名）の受け入れを行いました。また京都市教育委員会より、毎年公立中学校で実施されてきた「生き方探求・チャレンジ体験」にて、市内中学校 6 校（嵯峨、蜂ケ岡、西賀茂、西京極、太秦、京都教育大学附属京都小中学校）から 22 名の受入を行いました。

エ、中学生の起業体験補助事業実施への協力

『京都の伝統工芸を世界へ！』同志社国際中学校 2 年生

「Kyoto アントレプレナーチャレンジ」で採択された上記事業を、このアイデアを考えた中学生たちが実践する機会を宇多野ユースホステルで提供しました。水引という文化を海外の方へ伝える、なかなか難しい作業でしたが、流ちょうな英語でとても素敵な国際交流の時間を過ごしていました。

日時：2023 年 12/17（日）参加者：20 名

協力：特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センター、ライオンズクラブ国際協会 334 複合地区 ガバナー協議会

オ、ニホンミツバチ養蜂とハチミツ採取勉強会

「ミツバチがいなくなると世界の農産物の 3 分の 1 は育たなくなる」ってどうして？子どもたちが自然の循環や食に興味を持ってくれる機会を提供、8 月にハチミツ採取会を行いました。

日時：2023 年 8 月 1 日（火）参加者：30 名

協力：京・みつばちの会 、ひこばえ児童館

実施時期	4-6 月	7-9 月	10-12 月	1-3 月	合計
2023 年度目標	500 名	450 名	850 名	350 名	2,150 名
2023 年度結果	950 名	560 名	464 名	779 名	2,753 名

3. 活動団体と連携、共催する体験活動の継続実施や支援

実施時期	4-6 月	7-9 月	10-12 月	1-3 月	合計
2023 年度目標	9,300 名	7,680 名	9,360 名	6,500 名	32,840 名
2023 年度結果	10,516 名	9,758 名	11,948 名	10,389 名	42,611 名

ア、まいまい京都 2023

まちの魅力再発見と地域活性、「歩くまち・京都」の推進を目指す、スペシャリストと歩く京都ミニツアーを共同運営しました。

イ、ネイチャーキッズ 2023

多世代交流を目的に大学生のボランティアリーダーが主体的に考え活動し、小学生を対象に年間を通じて実施する野外活動プログラム。ツリークライミングや沢登りなど自然の中で力を合わせて様々な体験をし、心と身体の成長につなげています。

ウ、ガリレオサイエンス教室

理科実験を通して、子どもの自主性や協調性を育むプログラム。考え抜く力と自己も他者も認められる強さを育みます。

事業活動概況）Ⅱ. 宇多野ユースホステル（施設運営）

今年度は、4年間の新しい指定管理期間の1年目となりました。猛威を振るった新型コロナウィルス感染症も収束し、それに伴いユースホステルの宿泊予約や利用が急回復しました。海外からの団体グループについてもコロナ禍中に入っていた予約申込もキャンセルにならず、コロナ禍以前よりも多い宿泊者数となりました。国内の教育旅行については、1年前より予約が入ることもあり、コロナ禍を見据えて当初春に予定していた予約を秋以降へ移行させていたこともあり、本来閑散期となる紅葉シーズン後の12月中旬まで学校団体の利用が入るなど、当初目標を上回ることが出来ました。

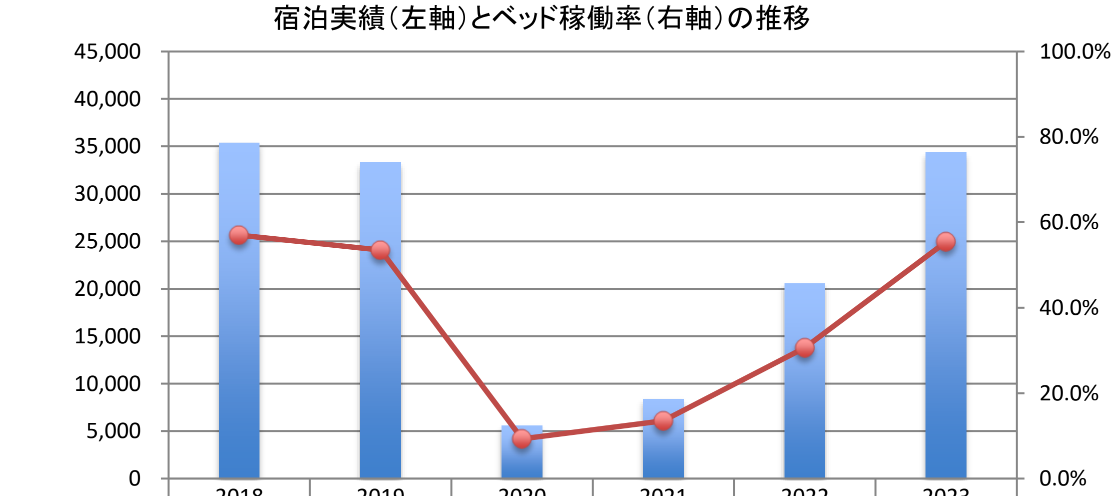
一方で、コロナ禍より欠員等の人員補充を控えながら運営を行う中で、予想以上に急激な宿泊者の回復が見られ、急ぎ求人を行うも現行の条件では応募者が集まらない状況が続くなど、人手不足での過重労働などの厳しい運営を強いられました。持続可能な施設運営やユースホステルの社会的な役割や意義を果たす取り組み、活動を行う上で解決すべき大きな課題となりました。

（1） 目標と達成状況

■年間宿泊実績目標：30,500 名
結果：34,932 名
（目標達成率：114.5%、対前年度 20,557 名、対前年度比：169.9%）

■年間学校団体利用実績目標： 90 校
結果：128 校（目標達成率：142.2%、対前年度：71 校）

■年間スポーツ団体利用実績目標：65 団体
結果：66 団体（目標達成率：101.5%、対前年度：48 団体）

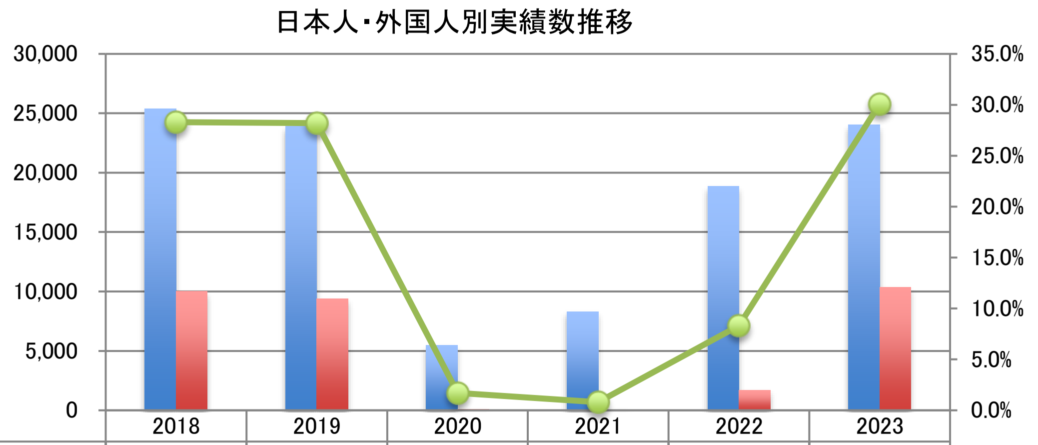


	2018	2019	2020	2021	2022	2023
宿泊実績	35,392	33,299	5,566	8,377	20,557	34,392
稼働率	57.0%	53.5%	9.3%	13.5%	30.6%	55.4%

（２）トピックス

１．急激な回復を見せた宿泊者と長期宿泊のインバウンド

コロナ禍の収束にあわせて日常の活動が戻り、国内教育旅行団体やスポーツ団体、そして多くの外国人旅行者の宿泊が回復してきました。特に外国人は、円安の影響もあると思われますが、オンライン予約サイトによる個人予約の伸びもあった他、フランスの大学院生グループ（15 名）が、4 月に約 1 か月にわたり宿泊したほか、8 月にはアメリカと日本の合同学生グループ（70 名）が 10 日間の宿泊や 1 月には中国の学生グループ（80 名）が 1 週間の宿泊などがあり、宿泊利用回復に大きく貢献しました。



	2018	2019	2020	2021	2022	2023
日本人	25,378	23,895	5,472	8,311	18,852	24,044
外国人	10,014	9,404	94	66	1,705	10,348
外国人割合	28.3%	28.2%	1.7%	0.8%	8.3%	30.1%

【学校団体年間利用実績】　　※（　）内は対前年度実績　※クラブ利用などは含まず

	合計	内訳		
		小学校	中学校	高校
国内学校団体	90　校(+24 校)	37　校(+12 校)	39　校(+7 校)	14　校(+7 校)
泊数	117　泊(+29 泊)	39　泊(+14 泊)	62　泊(+8 泊)	16　泊(+9 泊)
延べ宿泊数	8,330　名(+2,365 名)	2,742　名(+1,199 名)	4,965　名(+913 名)	623　名(+335 名)
平均泊数	1.30　泊(+0 泊)	1.05　泊(±0 泊)	1.59　泊(±0 泊)	1.14　泊(±0 泊)
海外学生団体	38　校(+31 件)	上位国 フランス 12 件、アメリカ 5 件、オーストラリア 5 件		
泊数	132　泊(+107 泊)			
延べ宿泊数	3,566　名(+2,906 名)			
平均泊数	3.47　泊(+3.6 泊)			

２．宇多野地域の魅力を知ってもらう体験会やツアーの開催

百人一首ゆかりの地が点在する宇多野地域の魅力発見や学びの場として、３か月を１セットにした講義やかるた取りなどを組み合わせた体験会を開催する他、地元切絵作家による百人一首をテーマとした作品の展示を約半年間に渡り館内にて実施しました。

また、関連して地域固有の資産で、君が代でも詠まれている「さざれ石」や千代の古道の散策、古墳を巡るツアーを組み合わせた宿泊プランなども実施しました。

３．利用者評価および広報活動の取り組み

【利用者アンケート評価】

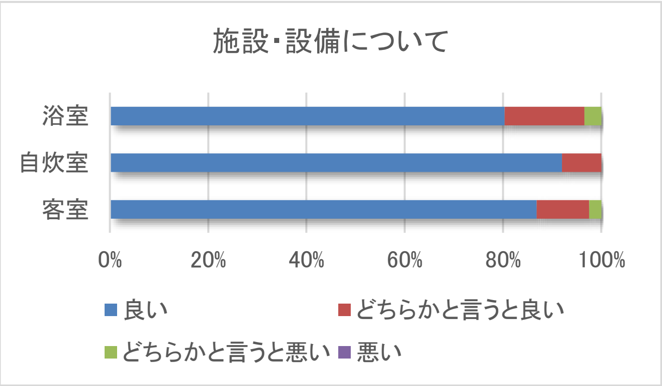
＊Google 総合評価とても満足：4.3（前回：4.3）　＊Trip Advisor とても良い：4.5（前回：4.5）
＊楽天トラベル総合評価　　　：4.3（前回：4.5）　＊agoda 非常に満足　　　　：8.5（前回：8.5）
＊Booking.com Traveller Review Award：8.4（前回：8.2）

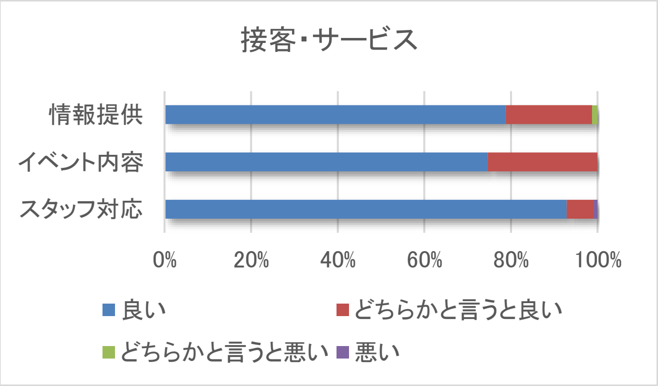
利用者評価について微増微減ありますが、ほぼ高い水準で推移しています。

初めてご利用の方にフロントにて「選んだ理由」をヒアリングもしましたが、「値段が安かったので」という声が多く聞かれました。一方、ホテルのようなアメニティサービスがないことやシーツを各自で敷いてもらうようなセルフサービスに対しての不満の声は、余り聞かれませんでした。他の宿泊施設が軒並み値上げをしている中で、非常にリーズナブルな京都への旅ができる施設であることを認識した利用が多いと思われます。また、「もう少し宿泊費を高くしてもいいのではないか」という声もいただきました。

運営の課題としては、コロナ禍の閑散期には個室対応をしていた時期もあり、「静かに宿泊できた」という声が多くありましたが、宿泊が回復する今年度では、「夜に同宿されている方の話し声が気になる」という意見を特にご年配の方を中心にいただきました。寝室含め館内が木の扉で遮音性が低い事や交流を目的としたパブリックスペースが多い事などの施設の特性の他、若い世代が戻ってきていることやコロナによる様々な制限が解除された反動もあるのかもしれません。運営側でも 22 時以降にロビーで話している方への声掛けや夜間の見回りなど、少しでも快適に滞在していただく対応に努めております。一方で制限をしすぎることで「使いにくい施設」とならないよう気をつけてまいります。また、館内にはユースホステルの社会的な意義などを知ってもらう啓発パネルなどを設置していますが、アンケートの中できちんと見てくれている回答もあり、今後も継続して発信してまいります。

宿泊者アンケートより　N＝126





【営業活動・広報等】

- アウトドアメーカーオンラインイベントへの出展や情報発信
- 青少年団体への研修合宿や連携した宿泊企画による誘致
- やまむらや（精肉店）出張 BBQ プラン提携先として HP に掲載
- 京北商工会訪問：京北の魅力発信と連携について意見交換
- 右京ファンクラブねっと：今後の連携と情報発信について打診
- 東洋のハリウッド太秦という地域性を活かしたコスプレイヤーの宿泊誘致
- インスタグラムや facebook 等 SNS を活用した情報発信の強化（ほぼ毎日配信）
- NHK 京都放送「ニュース 630 京いちにち」百人一首切り絵展示会について（6/19 放送）
- テレビ朝日ドラマ「遺留捜査」ロケ現場として撮影協力（9/21 放送）
- Radio Mix Kyoto「きぬかけのこころ」出演(24.1/26)
- 日本ユースホステル協会季刊誌『Hostelling Magazine』冬号：京都府下 YH 紹介広告掲載
- 右京じかん 2023 年夏号（フリーペーパー）：焚火イベント取材に絡む紹介記事掲載
- 京都府母子寡婦福祉連合会会報「道しるべ」：「ひとり親家庭宿泊体験」報告記事掲載
- 京都市ごみ減量推進会議情報誌「こごみ日和」1・2 月号：宇多野ユースホステルにおける環境への取組紹介記事掲載
- 京都ライオンズクラブ総会にて活動紹介（2/28）
-

▲「右京じかん」より見開きで掲載いただきました。

事業活動概況） Ⅲ. ユースホステル関連活動（食堂・物販）

宿泊事業についてはコロナ禍以前の状況に戻りつつある一方、食事提供においては「宿では食事を摂らない」個人旅行者や外国人旅行者が多く、日本人についても以前は「コロナ禍は外食を控え宿で取る」という流れから「外で食べる」という流れへの変化が顕著に見られました。そのため、食事摂取率はコロナ禍前よりも大きく低下しました。

また、食材等の高騰を受けて今年度 4 月より食事料金の改定（夕食 1,200 円→1,250 円／朝食 700 円→750 円）を行いましたが、修学旅行等の学校団体をはじめ、早めに事前予約を受けていた団体については、半年間は経過措置として改定前の食事料金としたため、値上げについても収入に十分反映することが出来ませんでした。

（1） 目標と達成状況

■夕食提供目標数：17,000 食（摂取率 55.7%）

結果：15,645 食（摂取率 45.5%）

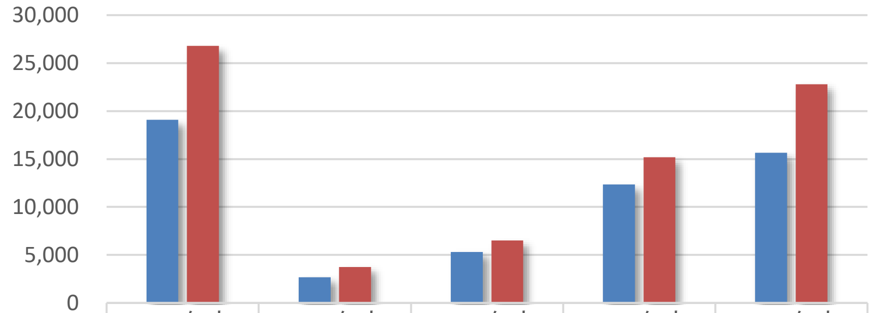
（目標達成率：92.0%、対前年摂取率：75.7%、対前年度比：-14.6%）

■朝食提供目標数：25,500 食（摂取率 83.6%）

結果：22,800 食（摂取率 66.3%）

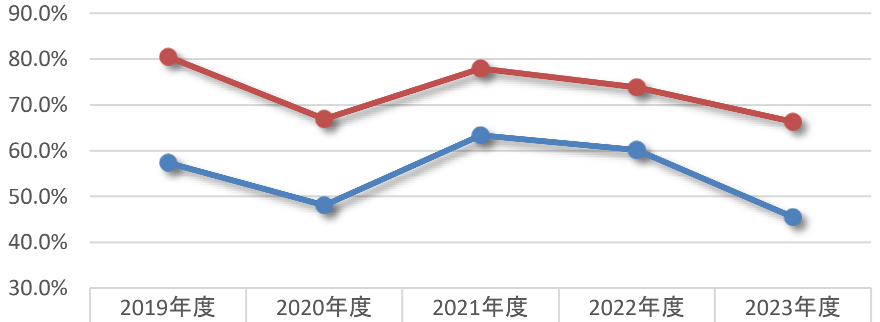
（目標達成率：89.4%、対前年摂取率：89.8%、対前年度比：-7.5%）

食事摂取数



	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
■摂取数 夕食	19,101	2,674	5,307	12,357	15,645
■摂取数 朝食	26,802	3,725	6,526	15,180	22,800

食事摂取率



	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
夕食	57.4%	48.0%	63.4%	60.1%	45.5%
朝食	80.5%	66.9%	77.9%	73.8%	66.3%

（２）トピックス

１．イベントと組み合わせ市民にも提供、世界を味わう「ワールドディナー」

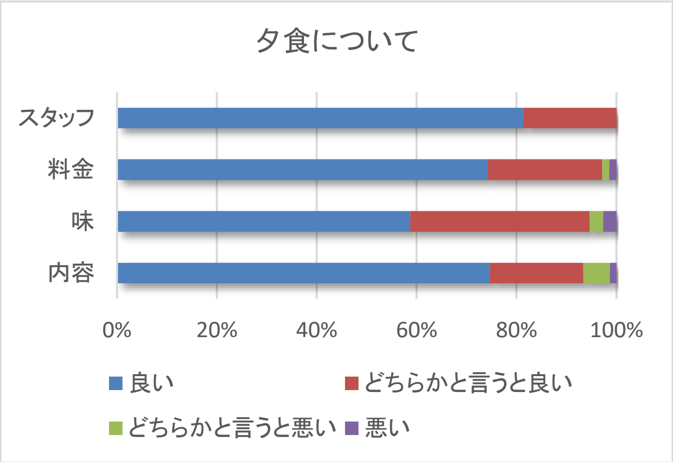
前述の 5 月 13 日～14 日に「京都でネパールを感じる 2 日間」と題したイベント活動とあわせて、今回はワールドディナーも絡め、ネパール料理を提供しました。五感でネパールを感じてもらいあわせて世界の多様性を感じてもらう催しとなりました。その他、年間を通じて市民の方にも参加いただきユースホステルを知ってもらう機会として、継続して実施いたします。

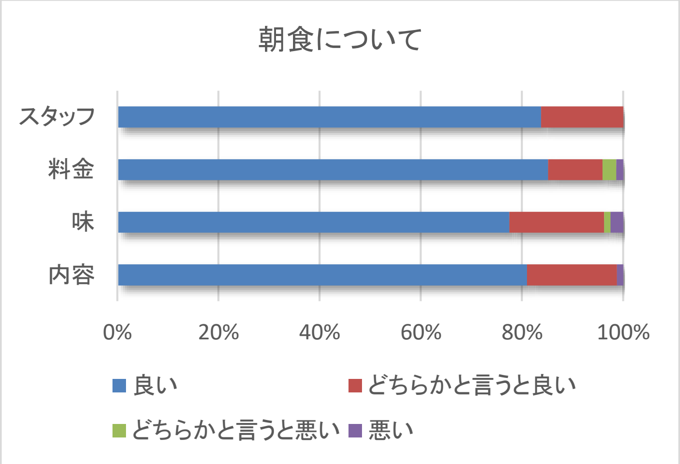
- 5/13(土) ネパールディナーの日
- 6/17(土)、7/7(土)　ベトナムディナーの日
- 9/22(金)　ドイツディナーの日
- 12/22(金)、1/12(金)　北欧ディナーの日
- 1/3（水）　お正月世界のカレーバイキング
- 2/10(土)、3/15(金)　トルコディナーの日

２．市民向けに桜の時期やマルシェ等でも提供

昼間開催の「うたのユース OpenDay &マルシェ」や春の桜の時期にはカフェをオープン。旅行者だけでなく市民の方に食事を味わっていただき出会いを楽しんでいただくと同時に、宇多野ユースホステルでゆっくりしていただくイベントとなりました。

宿泊者アンケートより　　N＝126





事業活動概況）Ⅳ. 天橋立ユースホステル（施設運営・食堂・物販）

2023 年 5 月 1 日より、新たな業務委託先である一般財団法人ポジティブアースネイチャーズスクールによる施設運営がスタートしました。

前年度までの委託運営者からの引継ぎで、予約システムや業者との取引内容等でトラブル、その対応や予約受入システム利用回復などで 8 月までは運営の苦戦を強いられましたが、8 月以降はこうした問題も徐々に減ると共に、地域や周辺施設、活動者との連携が広がって宿泊が大幅に回復しました。特に、10 月以降の下半期の実績では、過去 10 年を上回る数字となりました。

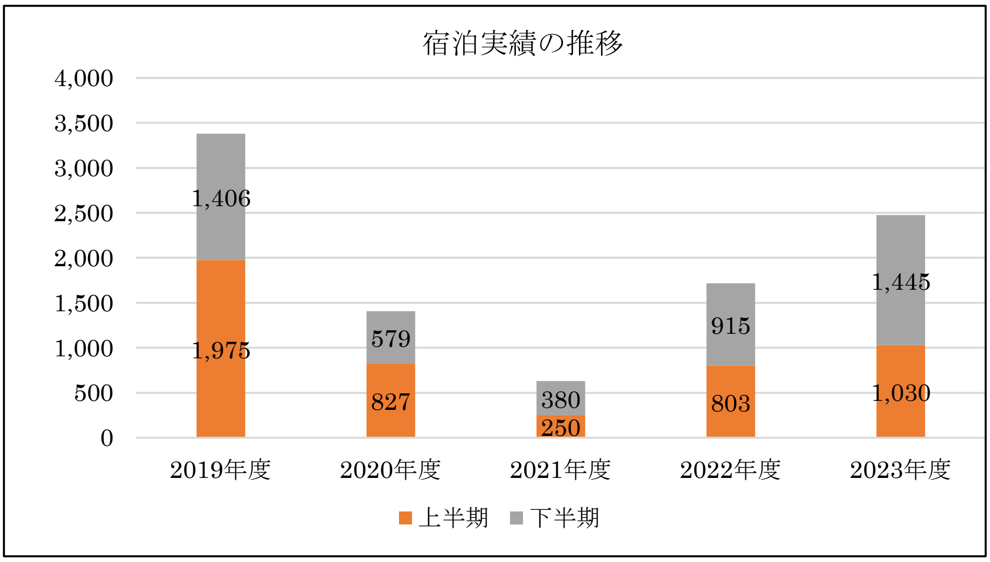
また、運営者の本業である子どもの自然体験事業も定期的に実施し、宿泊にもつなげました。

夕・朝食やカニ等の特別食の提供はまだまだ取り組みの余地がありますが、運営スタッフの負担や労働環境に配慮し、天橋立ユースホステルにあった提供方法を模索してまいります。

（１） 取組の達成状況

■ 年間宿泊実績： 2,475 名（対前年度：757 名増）

（宿　泊）	4-6 月	7-9 月	10-12 月	1-3 月	合計
2019 年度実績	739 名	1,236 名	775 名	631 名	3,381 名
2020 年度実績	124 名	703 名	393 名	186 名	1,406 名
2021 年度実績	87 名	163 名	313 名	67 名	630 名
2022 年度実績	306 名	497 名	697 名	218 名	1,718 名
2023 年度実績	240 名	790 名	657 名	788 名	2,475 名



（２）トピックス

夏・冬・春とユースホステル周辺のフィールドを活かした子ども自然キャンプ事業を実施しました。

■ 夏にフリーキャンプの実施　　子ども 25 名参加

■ 冬休みに　いついつキャンプの実施　子どものべ人数 85 名

■ 春休みに　いついつキャンプの実施　子どものべ人数 115 名

事業活動概況）Ⅴ. 組織運営

コロナ禍が明けると求人難で一気に人材確保が困難になりました。求人をしても年齢的な条件面で折り合いが付かず、なかなか採用には至らない状況が続きました。そのため、3月の役員会において契約職員の就業規則を改定し、年齢は高いが能力や経験のある方を改定した条件で雇用することが出来るようになり、下半期の退職者2名に対し、新年度からは3名を採用することが出来ました。

また、ワーキングホリデーの外国人の雇用や住み込みで仕事をしながら地域を旅するマッチングサイト“おてつたび”を試行的に活用し、繁閑に対応した運営体制などを試みてきました。

しかし、特に若い世代の雇用については、今後も難しい状況が見込まれます。他の求人と比較して検討してもらうことができる処遇の改善による提示が必要となっています。他にも、電気・ガス料金の値上げや基本的な労働環境を整えた上で責任ある施設運営や地域連携事業などを行う上で必要な財源を確保するために、宇多野ユースホステルの利用料金の改定などの見直しが不可欠となっております。宇多野ユースホステルに期待される価値や役割を果していく取り組みを行うためにも、料金見直し実現に向けて京都市との協議を継続してまいります。

当協会の方向性の整理や新たな活動の検討については、日常の施設運営やスタッフ指導に埋もれてしまい、十分に協議が行えませんでした。運営体制の整備と共に、「現在」だけでなく「将来」も見据えた当協会の価値や役割の創造についても整えてまいります。

財務状況

（１）概　要

１．決算概況

2022 年度までのコロナ禍の 3 年間は非常に大きな赤字決算となっておりましたが、コロナ禍が収束し宿泊利用が目標以上に回復したこと、求人難で人員補充が出来ない厳しい状況を何とか乗り切り運営が出来た結果、2023 年度は黒字回復を実現することができました。

各事業会計における収支差額は、次の通りとなりました。

	一般会計	物頒会計 食堂・物販	物頒会計 旅行事業	宇多野 YH 会計	天橋立 YH 会計	建設基金 会計	合　計
収　入	8,173,809	48,551,879	3,372,100	120,071,620	10,547,474	664	190,717,546
支　出	9,367,088	48,389,964	3,515,189	112,254,665	10,611,565	99	184,138,570
収支差額	△1,193,279	161,915	△143,089	7,816,955	△64,091	565	6,578,976
（対予算）	△3,279	△7,668,085	△1,143,089	14,424,955	△64,091	△2,435	5,543,976

黒字転換の一番の要因は、宇多野 YH の利用回復と少ない人員での厳しい運営を乗り切ったことより、宇多野ＹＨ会計で約 782 万円のプラスを達成したこと、過去の繰越債務により法人税負担が発生しなかったこと等が大きな要因です。利用料収入は、コロナ禍前の 2019 年度を上回る（対 19 年度比：108.9%）まで回復いたしました。

また、最小限の体制での施設運営による業務負担の増加や休日出勤の発生に対しては、冬季賞与の支給月数の回復や特別手当・休日出勤手当等の支給で対応いたしました。

一方、宇多野 YH での食事提供・物品販売の会計（物頒会計／食堂・物販）が課題となっております。個人や外国人旅行者が食事を外で取る傾向が一層強まる中、摂取率の低下、原材料の高騰、最低賃金の上昇と相まって、ほぼ収益を生み出せない状況となりました。

本来、食堂・物販事業は当協会の公益活動を支える収益事業であり、価格や内容、原価率等を含めこれまでの運営を大胆に見直すなど、更なる収支改善に努めてまいります。

また、一般会計は青少年事業実施によるマイナスとなっておりますが、予算対比ではほぼ予定通りの執行（対予算比：100.3%）となっております。

その結果、2023 年度の当期経常増減額は 6,578,976 円となり、正味財産期末残高は 65,666,061 円となりました。

また、宿泊利用の回復や京都市との宿泊料金の改定が今後進んで行く場合は、コロナ禍で借り入れを行いました政策金融公庫からの借入金 20,000,000 円の返済について、利息負担が発生する前の 2024 年度での返済を検討してまいります。

［経営実績の推移］

（単位：円）

科　　目	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
経常収益（収入）	195,286,399	101,433,357	95,289,810	131,099,672	190,717,546
事業推進業務	58,382,977	18,086,269	32,188,114	44,866,238	54,250,724
指定管理業務・施設運営	126,904,419	73,870,300	55,195,042	77,595,093	128,559,149
組織運営業務	9,999,003	9,476,788	7,906,654	8,638,341	7,907,673
経常費用（費用）	187,225,738	116,117,535	105,938,254	146,617,547	184,138,570
事業推進業務	52,566,977	21,063,681	24,744,259	46,556,115	55,407,834
指定管理業務・施設運営	125,694,320	88,158,496	74,156,609	91,705,534	120,797,685
組織運営業務	8,964,441	6,895,358	7,037,386	8,355,898	7,933,051
当期経常増減額（経常利益）	8,060,661	△14,684,178	△10,648,444	△15,517,875	6,578,976
経常外増減額（経常外利益）	0	0	△9,311	△181,272	0
当期正味財産増加額（純利益）	8,060,661	△14,684,178	△10,657,755	△15,699,147	6,578,976
正味財産期末残高	100,128,165	85,443,987	74,786,232	59,087,085	65,666,061